

何もしない寛大さ

(れみちゃんがサークルのFeedでシェアしてくれたものを再掲！)

以下、れみちゃんの文章そのまま引用します◎

オリジナルの記事はこちら。deepl翻訳をベースに意識と補足()をしました^^
<https://www.servicespace.org/blog/view.php?id=12848>

We call it Giftivism – the practice of radically generous acts that changes the world. It’s a kind of activism without an opponent. Martin Luther King Jr., Mother Teresa, Dalai Lama, Cesar Chavez, Aung San Suu Kyi and many others operate with this fundamental idea that the inner and outer are connected. That what I do to others, I do to myself. And conversely, the more I transform, the deeper my service to others.

ServiceSpace, then, has designed an ecosystem that encourages Giftivism. Because it assumes value everywhere, it places more emphasis on discovering than creating. Business-school credos like “plan and execute” are flipped on their heads to “search and amplify”. Leadership turns into “laddership”. And because it is planted in the game-changing era of Internet organizing, it creates a movement of many distributed, everyday Gandhis across the world’s local communities.

私たちはそれをギフティビズム (Gift+Activism)と呼んでいます。世界を変える、根本で過激なまでに優しい行為の実践です。

これは、相手のいない一種のアクティビズムなのです。

マーティン・ルーサー・キング牧師、マザー・テレサ、ダライ・ラマ、シーザー・チャベス、アウン・サン・スー・チー、その他多くの人々は、内面と外面はつながっているという基本的な考えを持って活動しています。

私が他の人に何をするか、私は自分自身に行うこと。そして逆に言えば、私が変われば変わるほど、他の人への奉仕はより深くなるということです。

ServiceSpaceは、ギフティビズムをエンカレッジ(=促進)するエコシステム(=生態系)をデザインしました。

それはあらゆるところに価値があることを前提としているため、創造することよりも発見することに重きを置いています。

「計画と実行(Plan & Execute)」のようなビジネススクールのクレドは「探索と増幅(Search & Amplify)」へと切り替わります。リーダーシップは「ラダーシップ」に変わる。

そして、インターネットが活躍するゲームチェンジ(=これまでの常識をくつがえす)の時代に植えられるからこそ、世界のローカルコミュニティに分散した多くのエブリディ・ガンディ(非暴力を生活レベルで実践する人たち)の動きが生まれるのです。

When small acts of Giftivism get connected in a circle, it creates a

gift economy. For many, this reads like a utopian ideal. The tragedy of the commons seems more apropos. However, this is only so when inner transformation is stripped out of the equation. Compared to acts of external generosity, acts of transformation-driven Giftivism have a much longer after life. Put another way, each kind act creates an external ripple effect and an internal one; *both* are required to create a gift circle. If you reduce generosity merely to its external impact, it naturally will decay into the tragedy of the commons.

ギフティビズムの小さな行為が輪になってつなぐと、ギフトエコノミーが生まれます。多くの人にとって、これはユートピア的な理想に見えるでしょう。「コモンズの悲劇*」は、より適切のように思われます。しかし(コモンズの悲劇が起こるとしたら)それは「内なる変化」が方程式から取り除かれた場合にのみ、そうなります。外的な優しさの行為と比較して、「変容」が主導するGiftivismの行為には、より持続する生命があります。もう一つの道を選びましょう。優しい行為のひとつひとつは外的な波及効果を起こしますし、自分のうちなる変化も起こします。その両方がギフトの輪を作るために必要なのです。もしあなたが優しさを、外的な影響だけに減じれば、それは自然とコモンズの悲劇へとおちいっていくでしょう。

*「コモンズの悲劇」

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B3%E3%83%A2%E3%83%B3%E3%82%BA%E3%81%AE%E6%82%B2%E5%8A%87>

以下は、deepl訳をそのまま載せます(力つきました)

The hardest job for ServiceSpace leadership is to keep trusting Nature. Masanobu Fukuoka, the grandfather of modern day permaculture, said he was practicing "Do Nothing Farming." He wouldn't till the soil, or pull out weeds, or use fertilizers or pesticides. His farm looked more like a forest than anything else, yet people would travel the world just to get a taste of his fruits. And he would emphatically declare, "Nature grows these plants, not me." His job was simply to get out of the way, so Nature could do its job in all its glory.

That's exactly what ServiceSpace aspires to. Do nothing generosity.

サービスペースのリーダーにとって最も難しい仕事は、自然を信頼し続けることです。

現代のパーマカルチャーの祖父である福岡正信は、「何もしない農法」を実践していると言いました。土を耕したり、雑草を抜いたり、肥料や農薬を使わない。

彼の農場は他の何よりも森のように見えたが、人々は彼の果物を味わうために世界中を旅していました。

そして彼は、「これらの植物を育てるのは自然であって、私ではない」と力強く宣言していました。彼の仕事は邪魔をしないようにすることで、自然が栄光のうちに仕事をするができるようにすることだったのです。

それがまさにサービススペースの目指すところですよ。何もしない寛大さ。